

2017年3月卒業予定者の

就職活動に関する 学生調査

2016年
8月1日状況

内定獲得率 **80.3%**

適切だと思う就職活動開始時期は

“大学3年生の12月以前”が

50.2%




アイデム 人と仕事研究所

WEBサイトでは、採用活動の
ヒントとなる情報を発信して
います

<https://apj.aidem.co.jp/>

人と仕事 

 「就職活動に関する学生調査」
「新卒採用に関する企業調査」
学生と企業の「今」がわかります

株式会社アイデム
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10
アイデム本社ビル

お問い合わせ
▶ 広報担当 / 望月・栗木 ▶ 調査担当 / 岸川・古橋・菊地
☎ 03-5269-8780 ✉ kouhousitu@aidem.co.jp

結果概要

2017 就職活動に関する学生調査
(2016年8月1日状況)

進捗状況

▶現在のステータス

【主な活動】

「面接・試験段階」…………… 12.7%
「内定獲得／就活継続段階」…………… 13.7%
「内定獲得／就活終了段階」…………… 65.7%
(前月比+16.5ポイント)

【各活動ステータスに到達した学生の割合】

「内定獲得段階(内定獲得率)」…………… 80.3%
(前月比+7.9ポイント)

▶内定獲得社数

平均2.3社(前月比±0社)
内定獲得者の63.4%が“2社以上”の内定を獲得

▶1日の活動時間

「就職活動に費やす時間」は1.1時間で、
前回調査(7月1日時点:1.9時間)から0.8時間の減少
2月1日時点の2.0時間を下回り、調査開始以来最低
「学業に費やす時間」は3.7時間で、
前回調査(7月1日時点:3.6時間)から0.1時間の増加

▶応募企業数

「10~19社」…………… 25.3% 「30~49社」…………… 24.0%
平均26.3社
前回調査(7月1日時点:25.5社)から0.8社の増加

▶エントリーシート・履歴書提出企業数

「10~19社」…………… 31.7% 「30社以上」…………… 21.2%
平均17.7社
前回調査(7月1日時点:16.7社)から1.0社の増加

▶面接選考企業数

「10~19社」…………… 37.8% 「5~9社」…………… 23.6%
平均12.3社
前回調査(7月1日時点:11.6社)から0.7社の増加

▶現在選考中の企業数

「1社」…………… 26.0% 「0社」…………… 20.5%
平均2.3社
前回調査(7月1日時点:3.1社)から0.8社の減少

今後の就職活動予定

▶企業への新たな応募予定がある学生

66.5% 前回調査(7月1日時点:68.1%)からほぼ横ばい

▶今まで興味がなかった“業界”や“職種”への応募を 考えている学生

【業界】62.1% 【職種】45.8%
7月1日時点で減少に転じたが、再び上昇傾向に

内定企業・入社予定企業について

▶入社予定企業の業界

「メーカー」…………… 30.0% 「金融・証券・保険」12.7%
「ソフトウェア・通信」11.7%

▶内定辞退の状況

「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」82.1%
前回調査(7月1日時点:69.4%)から12.7ポイント増加

▶内定者フォローの内容

「内定者や社員との懇親会」…………… 56.5%
「メールでの定期連絡」…………… 22.2%
「内定者向けサイト(SNS等)への参加」…………… 19.7%

されると嬉しい内定者フォローは
「内定者や社員との懇親会」「内定式」「社内見学会」
「社内報や資料の送付」

されると面倒に感じる内定者フォローは
「レポート等の課題」「電話での定期連絡」
「内定企業でのインターンシップ・アルバイト」
「内定者向けサイト(SNS等)への参加」

▶内定者フォローの頻度

内定企業からの連絡頻度は、「月に1回程度」が41.3%で最多
連絡頻度について、58.5%の学生が「ちょうどよい」と感じて
いるものの、「週に1回以上」だと多いと感じる学生が増加

▶入社前に受けたい研修

「ビジネスマナー」「配属先で必要な知識・技能」
「ビジネススキル」

適切な就職活動時期

▶適切だと思う就職活動開始時期

「大学3年生の1月~3月」…………… 35.2%
「大学3年生の10月~12月」…………… 23.9%
学生の50.2%は、「大学3年生の12月以前」が適切だと回答

▶就職活動の“解禁日”は必要か

「必要」「どちらかと言えば必要」が合わせて53.5%

●	調査概要	p. 4
1	就職活動の進捗状況	p. 5
2	内定獲得状況	p. 6
3	企業規模に対する志向	p. 7
4	1日の活動時間	p. 8
5	会社説明会参加回数	p. 9
6	応募企業数	p.10
7	エントリーシート・履歴書提出企業数	p.11
8	面接選考企業数	p.12
9	現在選考中の企業数	p.13
10	志望業界・入社予定企業の業界	p.14
11	志望職種・入社予定企業の職種	p.15
12	企業への新たな応募予定(8月)	p.16
13	入社予定企業の従業員規模	p.17
14	内定辞退の状況	p.18
15	企業から受けた内定者フォロー	p.19
16	内定者フォローの頻度	p.20
17	行なってくれると嬉しい内定者フォロー・ 面倒に感じる内定者フォロー	p.21
18	入社前に受けたい研修	p.23
19	就職活動“解禁日”の必要性	p.24

調査概要

調査目的 2016年8月1日時点における就職活動の準備・進捗状況等から、就職活動を行なう学生の実態を明らかにすること

調査対象 2017年3月卒業予定で、民間企業への就職を希望している大学4年生・大学院2年生の男女

調査方法 インターネット調査

調査期間 2016年8月1日～3日

有効回答 714名
「JOBRESS 新卒」登録学生（378名）、株式会社クロス・マーケティングのアンケートモニター（336名）

※本調査は小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合があります。
※「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示しています。

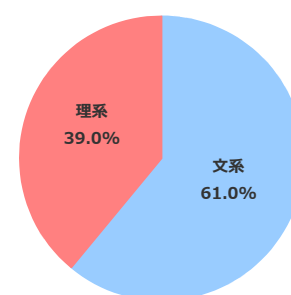
居住地域	回答数	(%)
北海道・東北地方	32	4.5
関東地方	282	39.5
北陸・甲信越地方	18	2.5
東海地方	41	5.7
近畿地方	268	37.5
山陰地方	23	3.2
四国地方	4	0.6
九州地方	46	6.4
合計	714	100.0

専攻	回答数	(%)
文系	505	70.7
理系	209	29.3
合計	714	100.0

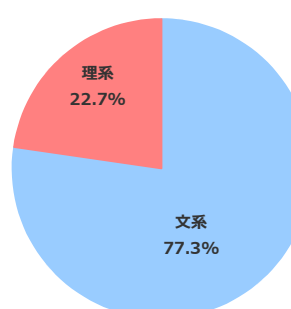
所属サークル	回答数	(%)
文化系	248	34.7
体育会系	159	22.3
イベント系	40	5.6
無所属	267	37.4
合計	714	100.0

性別	回答数	(%)
男性	287	40.2
女性	427	59.8
合計	714	100.0

男性



女性



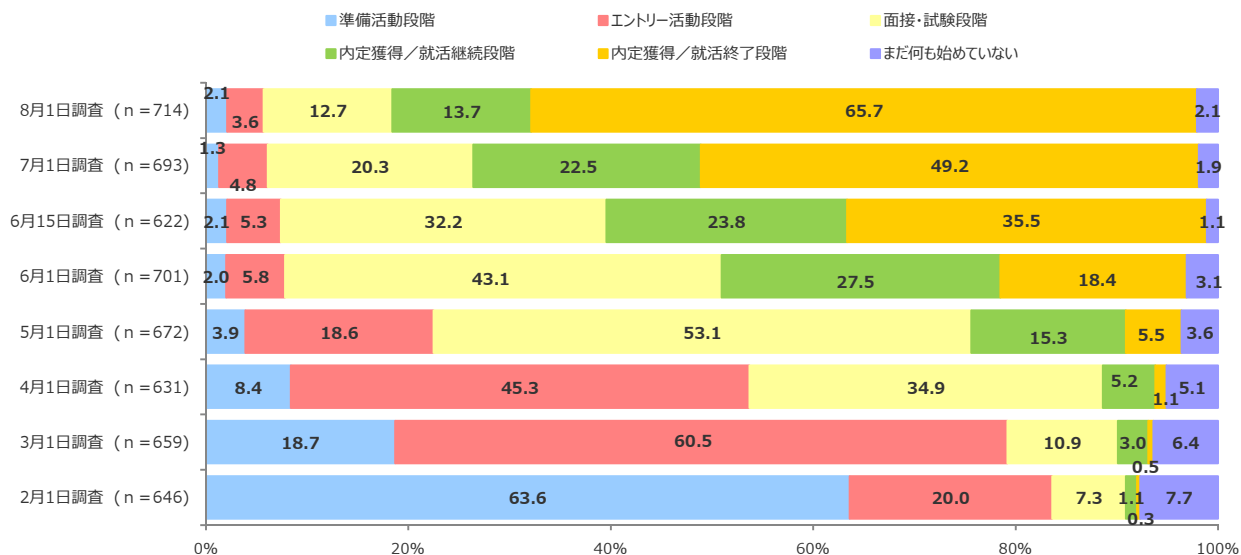
就職活動の進捗状況

学生に、2016年8月1日時点の就職活動において、“現在行なっている＜主な活動＞”を聞いた。65.7%が「内定獲得／就活終了段階」と回答しており、選考活動解禁から2ヵ月で7割近くの学生が就職活動を終了させている。就職活動を継続している学生については、「内定獲得／就活継続段階」が13.7%「面接・試験段階」が12.7%となっており、2017卒の就職活動も最終局面に突入していることがうかがえる（図1.1）。

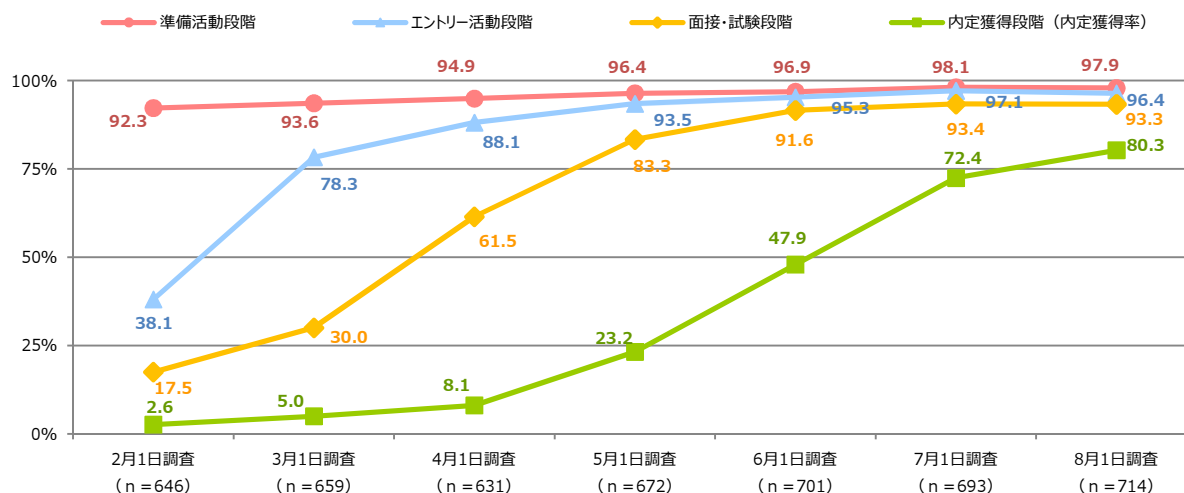
また、どのくらいの学生が就職活動の各活動ステータスに到達しているかを見た。8月1日時点では、「準備活動段階」97.9%、「エントリー活動段階」96.4%、「面接・試験段階」93.3%となっている。「内定獲得段階（“内定獲得／就活継続段階”と“内定獲得／就活終了段階”の計。以下“内定獲得率”）」は80.3%となり、7月1日調査（「2017年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2016年7月1日状況」／以下同）から7.9ポイント増加した。「エントリー活動段階」は2月から3月にかけて、「面接・試験段階」は3月から5月にかけて伸びている。「内定獲得率」は、5月以降毎月20ポイント以上の伸びが見られたが、7月から8月の間はやや失速した（図1.2）。

- ◆準備活動段階
就職活動の情報収集や就活ナビサイトへの登録、自己分析や業界研究など企業にエントリーする前の準備を始めた段階
- ◆エントリー活動段階
説明会やエントリーシートの作成・提出など、企業にエントリー・応募し始めた段階
- ◆面接・試験段階
面接や試験など、主に企業の選考を受けている段階
- ◆内定獲得／就活継続段階
1社以上の内定を獲得したが、就活を継続している段階
- ◆内定獲得／就活終了段階
1社以上の内定を獲得し、就活を終了した段階

【図1.1】現在の就職活動のステータス：＜主な活動＞



【図1.2】各活動ステータスに到達した学生の割合



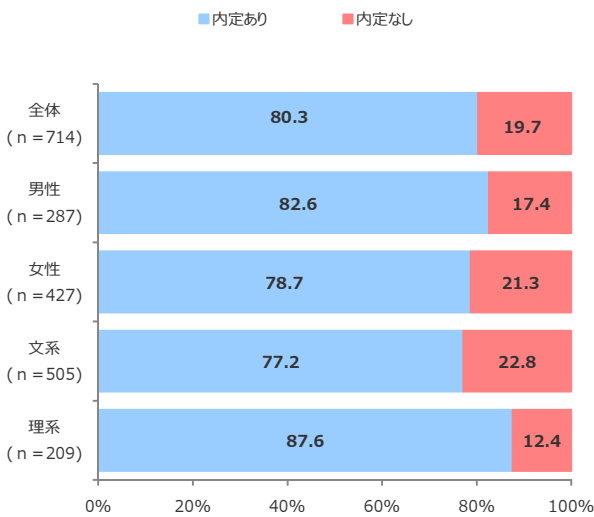
内定獲得状況

「図1.2 各活動ステータスに到達した学生の割合」から、学生の内定獲得状況の詳細を見た。全体では、「内定あり」80.3%、「内定なし」19.7%となった。男女別では男性が、文理別では理系の方が「内定あり」の学生の割合が高い（図2.1）。

内定を獲得した学生に、獲得社数を聞くと、平均は2.3社だった。「1社」36.6%、「2社」31.1%、「3社以上」32.3%となり、複数の内定を獲得している学生が63.4%に達している。属性別に見ると、男女別では差はなく、文理別では文系が、企業規模に対する志向別では大企業志向の方が、内定獲得社数が多いようだ（表2）。

内定獲得率の推移を見ると、7月1日調査から7.9ポイントの増加となった。5月から毎月約20ポイント伸びていたが、7月に入り落ち着いてきたようだ。また、内定獲得者に占める複数内定獲得者の割合（以下、内定獲得者における複数内定獲得率）は7月1日調査から4.8ポイントの増加となった（図2.2）。

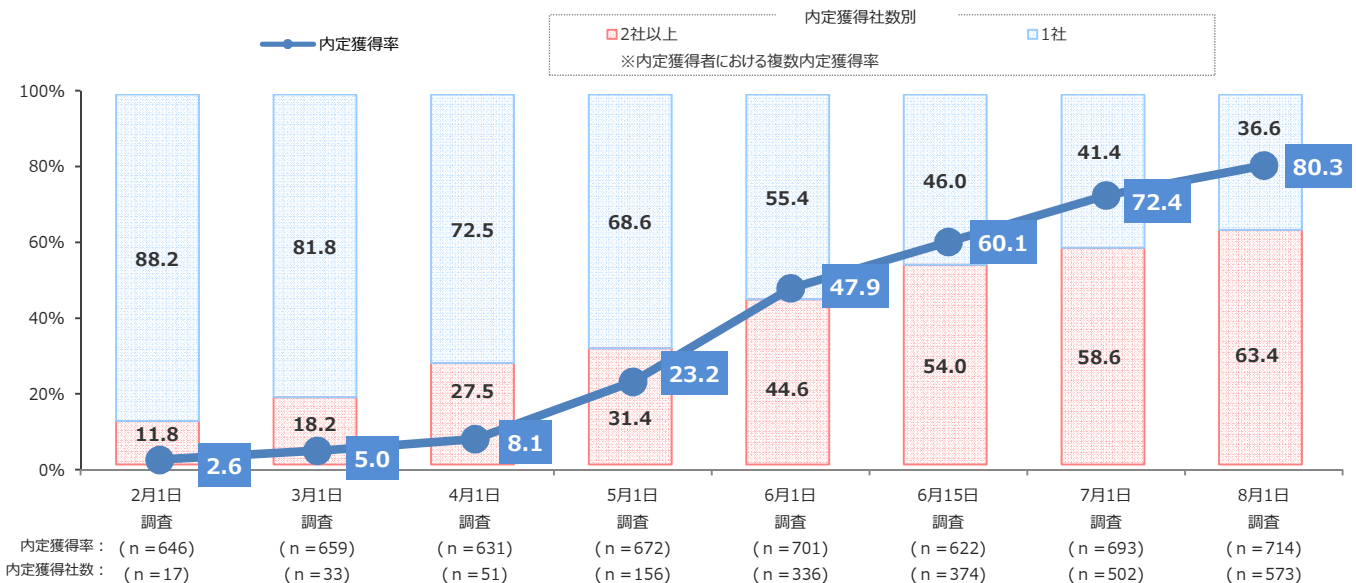
【図2.1】内定獲得状況：属性別



【表2】内定獲得社数：属性別

		1社 (%)	2社 (%)	3社以上 (%)	平均 (社)
全体 (n = 573)		36.6	31.1	32.3	2.3
男女別	男性 (n = 237)	38.0	27.0	35.0	2.3
	女性 (n = 336)	35.7	33.9	30.4	2.3
文理別	文系 (n = 390)	35.1	30.3	34.6	2.4
	理系 (n = 183)	39.9	32.8	27.3	2.1
対する企業規模に志向別	大企業志向 (n = 319)	34.8	28.8	36.4	2.4
	中小企業志向 (n = 157)	36.9	38.2	24.8	2.1
	企業の規模は全く意識していない (n = 97)	42.3	26.8	30.9	2.2

【図2.2】内定獲得状況：時系列



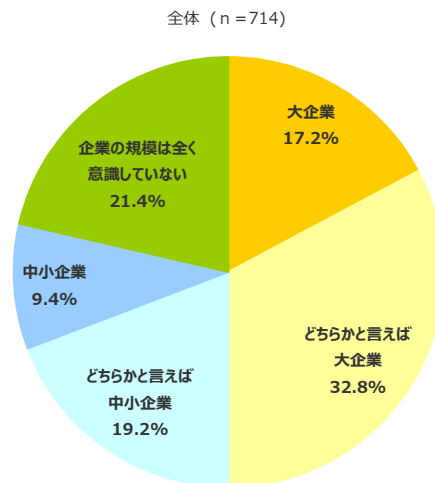
企業規模に対する志向

学生に、就職活動を行なうにあたり、大企業と中小企業のどちらを志望する気持ちが強いかを聞いた。8月1日時点では、「大企業志向」（「大企業」と「どちらかと言えば大企業」の計／以下同）が50.0%に上った。「中小企業志向」（「中小企業」と「どちらかと言えば中小企業」の計／以下同）と回答した学生は合わせて28.6%、「企業の規模は全く意識していない」学生は21.4%となった（図3.1）。

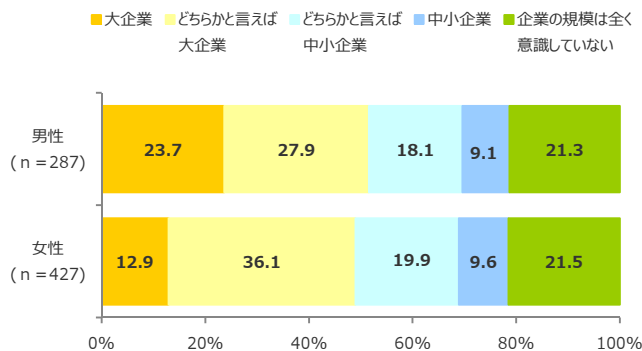
男女別で見ると、大企業志向の学生の割合は、男性51.6%、女性49.0%でほぼ同程度となったが、男性の方が「大企業」と回答した学生の割合が高く、より強い意向があるようだ（図3.2）。

文理別で見ると、大企業志向の学生の割合は、文系で49.4%、理系で51.7%となり、大きな差はなかった。しかし、理系の方が、「大企業」の回答割合が高くなっており、文系よりもこだわりがある学生の割合が高い（図3.3）。

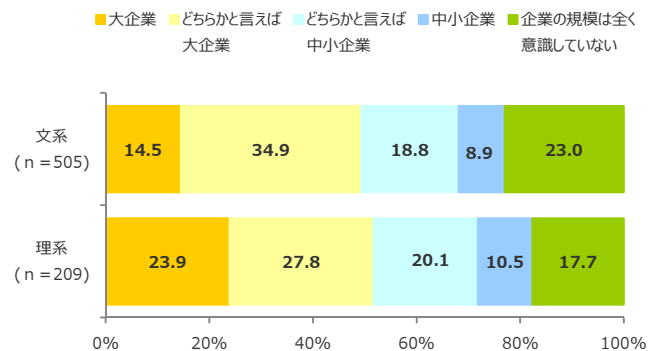
【図3.1】 企業規模に対する志向



【図3.2】 企業規模に対する志向：男女別



【図3.3】 企業規模に対する志向：文理別



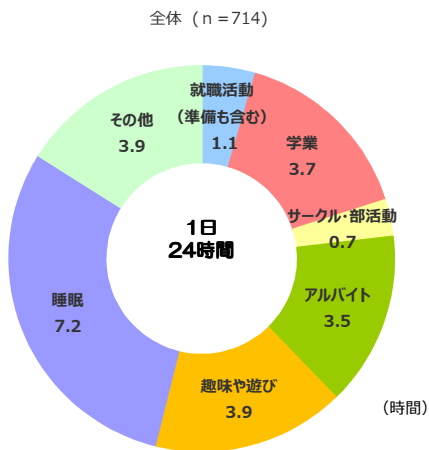
1日の活動時間

学生に、8月1日時点で、1日のうち「就職活動」「学業」「サークル・部活動」「アルバイト」「趣味や遊び」「睡眠」にどのくらいの時間を費やしているかを聞き、平均化した。結果は、「就職活動」1.1時間、「学業」3.7時間、「サークル・部活動」0.7時間、「アルバイト」3.5時間、「趣味や遊び」3.9時間、「睡眠」7.2時間となった（図4.1）。

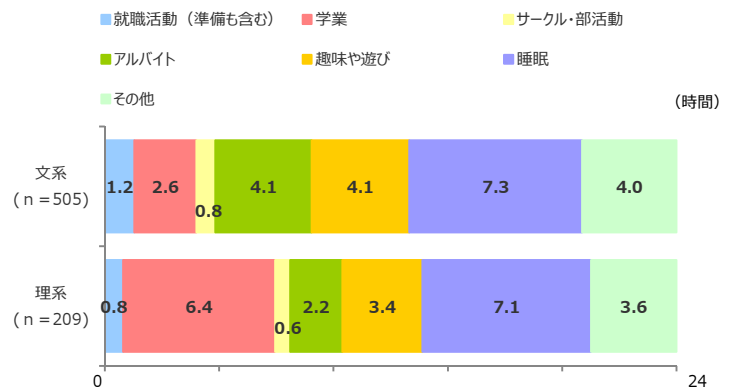
文理別に見ると、「学業」に費やす時間は、理系が6.4時間、文系が2.6時間と理系の方が大幅に多く、卒業に向けた研究・論文が本格化していることがうかがえる。一方、文系は「アルバイト」に費やす時間、「趣味や遊び」に費やす時間がともに4.1時間と、それぞれ理系よりも多く、文理によって時間の使い方が異なっているようだ（図4.2）。

時系列で見ると、「就職活動」に費やす時間は7月1日調査から0.8時間減少し、2月の調査開始以来最低の数値となった。「就職活動」に費やす時間は時期によって変動しているのに対し、「睡眠」時間は2月から一貫して7時間程度確保されている。また、「睡眠」「サークル・部活動」「その他」の時間は、2月から8月まで大きな変動がなく、学生は、「学業」「アルバイト」「趣味や遊び」の時間をやりくりして就職活動の時間を捻出しているようだ（図4.3）。

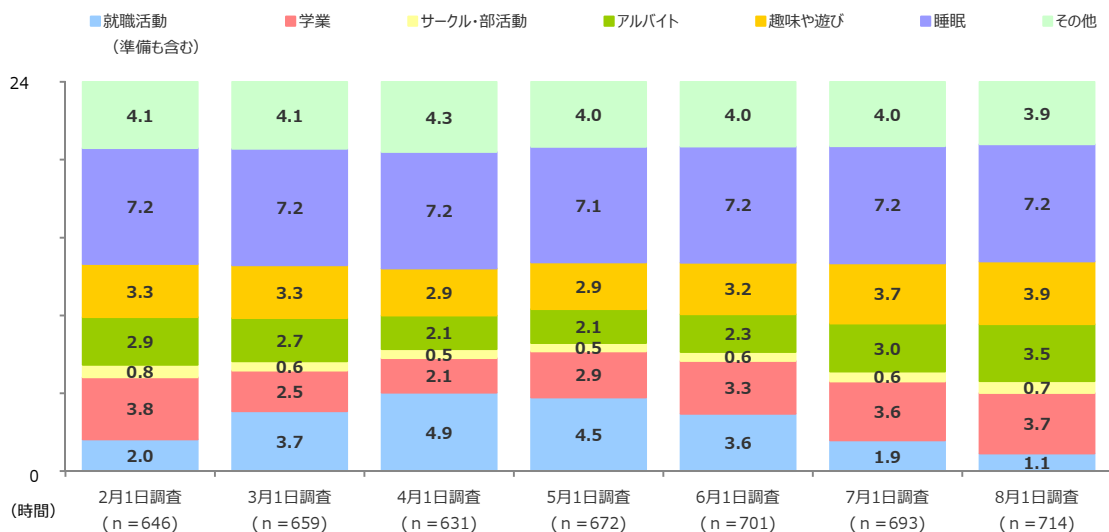
【図4.1】1日の活動時間／平均



【図4.2】1日の活動時間／平均：文理別



【図4.3】1日の活動時間の推移／平均



会社説明会参加回数

「1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、8月1日までに参加した会社説明会の回数の合計を聞いた。結果は、「40回以上」が24.3%と最も多く、続いて「10～19回」と「20～29回」が同率で19.5%、「30～39回」が19.2%となった。

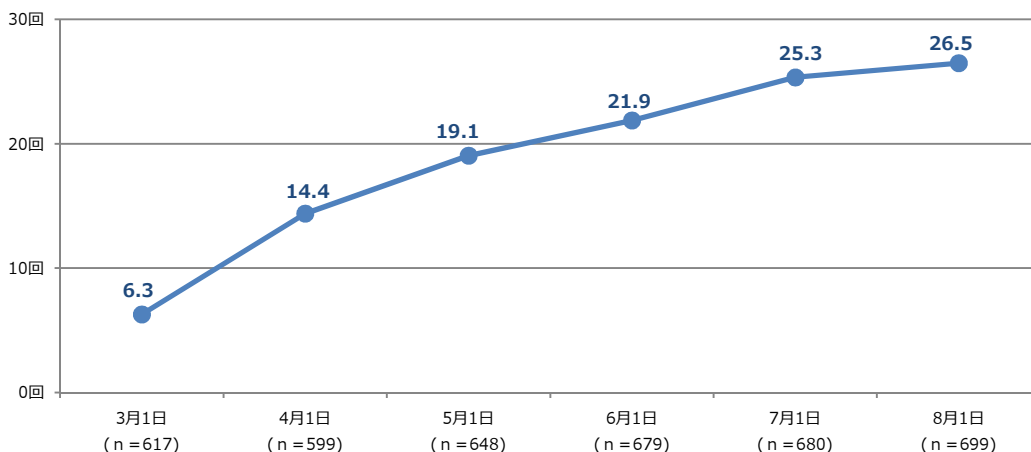
平均回数は26.5回となった。男女別では女性の、文理別では文系の、企業規模に対する志向別では中小企業志向以外の学生の参加回数が多くなっている。また、内定獲得状況別に見ると、「内定あり」の学生の方が「内定なし」の学生に比べ、より多くの会社説明会に参加している傾向がある（表5）。

平均回数の推移を見ると、7月1日調査から1.2回の増加に留まり、増加幅は緩やかになっている（図5）。

【表5】会社説明会参加回数：属性別

		0回	10～19回	20～29回	30～39回	40回以上	平均	
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(回)	
全体 (n=699)		1.9	15.7	19.5	19.5	19.2	24.3	26.5
男女別	男性 (n=280)	1.8	16.4	22.9	18.9	18.6	21.4	24.5
	女性 (n=419)	1.9	15.3	17.2	19.8	19.6	26.3	27.9
文理別	文系 (n=494)	1.4	13.2	17.6	19.0	19.6	29.1	29.1
	理系 (n=205)	2.9	22.0	23.9	20.5	18.0	12.7	20.3
対企業規模に する志向別	大企業志向 (n=355)	1.4	11.8	20.3	19.4	22.0	25.1	27.3
	中小企業志向 (n=201)	3.0	18.9	18.4	21.4	16.9	21.4	24.8
	企業の規模は全く意識していない (n=143)	1.4	21.0	18.9	16.8	15.4	26.6	26.9
内定獲得 状況別	内定あり (n=573)	1.2	13.3	19.9	19.5	21.1	25.0	27.4
	内定なし (n=126)	4.8	27.0	17.5	19.0	10.3	21.4	22.5

【図5】会社説明会参加回数の推移／平均



応募企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、8月1日までに選考に応募した企業数を聞いた。結果は、「10～19社」が最も多く、25.3%を占めた。次いで「30～49社」24.0%、「20～29社」19.0%となっている。

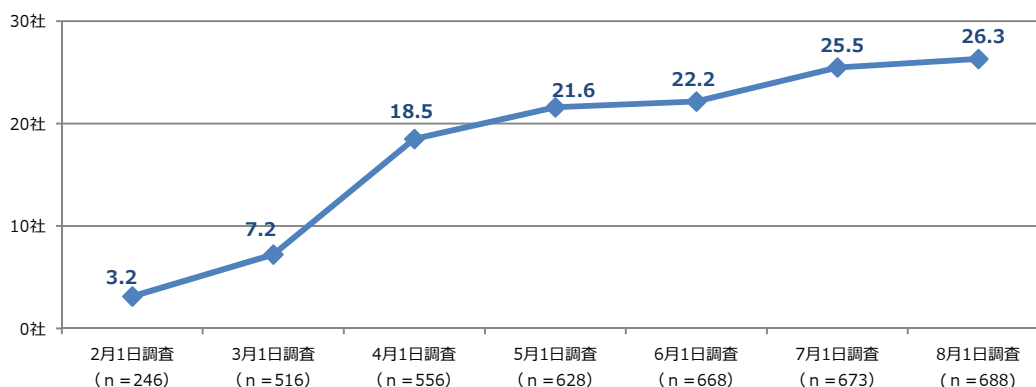
平均社数は26.3社となり、男性よりも女性、理系よりも文系、中小企業志向や企業規模を意識していない学生よりも大企業志向の学生の方が、応募企業数が多い。また、「内定あり」の学生は、「内定なし」の学生よりも応募企業数が多く、積極的に活動しているようだ（表6）。

平均社数の推移を見ると、7月1日調査の25.5社から0.8社の増加に留まり、再び横ばいとなった。6月から7月にかけては、動き出しが遅い企業の採用活動が開始されたことや、内定未獲得学生のリスタートなどが影響してか、応募企業数が一旦上向きに転じたが、ひと月で落ち着きを取り戻している（図6）。

【表6】選考に応募した企業数：属性別

		0社	10社	10～19社	20～29社	30～49社	50社以上	平均
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(社)
全体 (n = 688)		0.3	18.9	25.3	19.0	24.0	12.5	26.3
男女別	男性 (n = 275)	0.0	21.1	25.1	20.0	24.0	9.8	23.7
	女性 (n = 413)	0.5	17.4	25.4	18.4	24.0	14.3	28.1
文理別	文系 (n = 490)	0.4	15.3	25.3	20.6	25.5	12.9	27.5
	理系 (n = 198)	0.0	27.8	25.3	15.2	20.2	11.6	23.3
対する企業規模志向別	大企業志向 (n = 352)	0.0	15.3	21.9	21.9	27.8	13.1	27.7
	中小企業志向 (n = 195)	0.5	23.1	28.7	16.9	20.5	10.3	24.6
	企業の規模は全く意識していない (n = 141)	0.7	22.0	29.1	14.9	19.1	14.2	25.1
内定獲得状況別	内定あり (n = 573)	0.0	17.3	26.0	20.1	23.9	12.7	27.0
	内定なし (n = 115)	1.7	27.0	21.7	13.9	24.3	11.3	23.0

【図6】選考に応募した企業数の推移／平均



エントリーシート・履歴書提出企業数

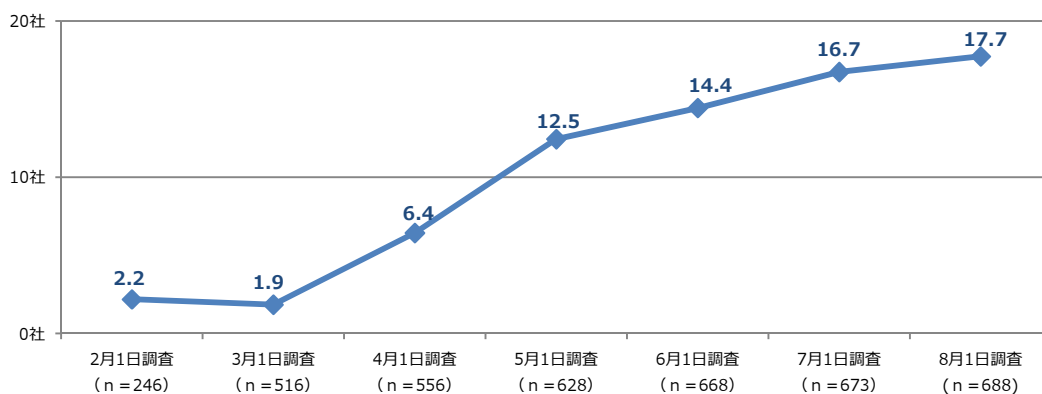
「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、8月1日までにエントリーシートや履歴書を提出した企業数を聞いた。結果は、「10～19社」と回答した学生が最も多く31.7%、次いで「30社以上」21.2%、「20～29社」20.6%となっている（表7）。

平均社数は17.7社だった。推移を見ると、7月1日調査の16.7社から1.0社の増加となった。応募企業数と同様に増加幅は緩やかになっており、応募活動は落ち着いているようだ（図7）。

【表7】エントリーシート・履歴書提出企業数：属性別

		0社	10～19社	20～29社	30～39社	40～49社	50社以上	平均
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(社)
全体 (n=688)		0.4	10.6	15.4	31.7	20.6	21.2	17.7
男女別	男性 (n=275)	0.4	12.4	16.4	33.5	19.6	17.8	16.4
	女性 (n=413)	0.5	9.4	14.8	30.5	21.3	23.5	18.6
文理別	文系 (n=490)	0.6	8.4	12.9	32.7	22.9	22.7	18.5
	理系 (n=198)	0.0	16.2	21.7	29.3	15.2	17.7	15.9
対する企業規模に志向別	大企業志向 (n=352)	0.0	9.4	12.5	32.1	22.2	23.9	18.8
	中小企業志向 (n=195)	1.0	12.8	17.4	32.8	18.5	17.4	16.4
	企業の規模は全く意識していない (n=141)	0.7	10.6	19.9	29.1	19.9	19.9	16.9
状況別	内定あり (n=573)	0.0	9.2	15.5	32.5	22.0	20.8	18.2
	内定なし (n=115)	2.6	17.4	14.8	27.8	13.9	23.5	15.7

【図7】エントリーシート・履歴書提出企業数の推移／平均



面接選考企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「面接・試験段階」以降に進んでいる学生に対し、8月1日までに面接の選考（グループワークやグループディスカッションも含む）を受けた企業数を聞いた。結果は、「10～19社」37.8%、「5～9社」23.6%となっている。

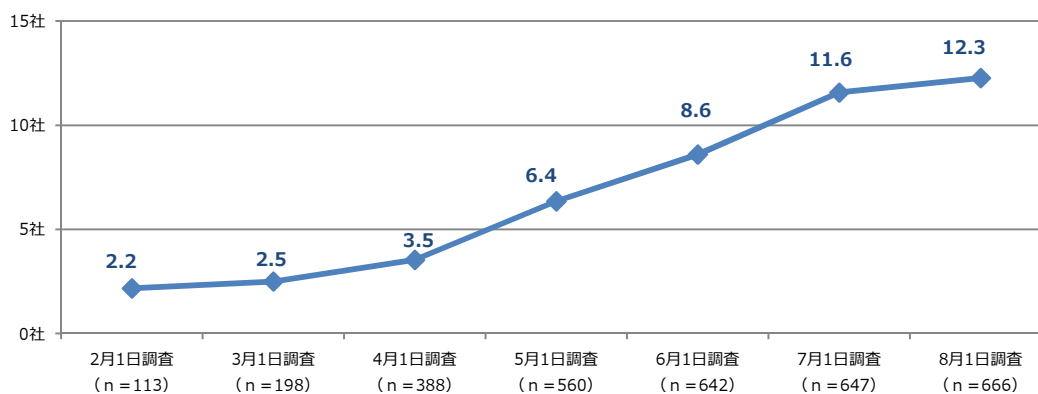
平均社数を属性別に見ると、文理別では文系が、企業規模に対する志向別では大企業志向の学生の方が平均社数が多い傾向にある。また、「内定あり」の学生は「内定なし」の学生よりも平均社数が多い（表8）。

平均社数の推移を見ると、7月1日調査から0.7社の増加に留まり、12.3社となった。応募企業数、エントリーシート・履歴書提出企業数と同様に、増加幅は緩やかになっている（図8）。

【表8】面接選考企業数：属性別

		0社	1～4社	5～9社	10～19社	20社以上	平均
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(社)
全体 (n=666)		0.3	16.4	23.6	37.8	21.9	12.3
男女別	男性 (n=267)	0.4	17.2	23.2	40.4	18.7	12.0
	女性 (n=399)	0.3	15.8	23.8	36.1	24.1	12.5
文理別	文系 (n=473)	0.4	14.4	22.0	37.4	25.8	13.1
	理系 (n=193)	0.0	21.2	27.5	38.9	12.4	10.3
対する企業規模に	大企業志向 (n=346)	0.0	15.6	20.8	39.0	24.6	12.8
	中小企業志向 (n=191)	0.5	18.3	27.2	34.0	19.9	11.6
	企業の規模は全く意識していない (n=129)	0.8	15.5	25.6	40.3	17.8	11.8
状況獲得	内定あり (n=573)	0.0	15.5	23.4	39.1	22.0	12.5
	内定なし (n=93)	2.2	21.5	24.7	30.1	21.5	10.8

【図8】面接選考企業数の推移／平均



現在選考中の企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでおり、かつ活動を継続している学生に対し、8月1日時点で「選考中」（応募はしているが、選考途中であり最終的な結果が出ていない状態）の企業数を聞いた。最も多かった回答は「1社」で26.0%、次点は「0社」で20.5%となっている。

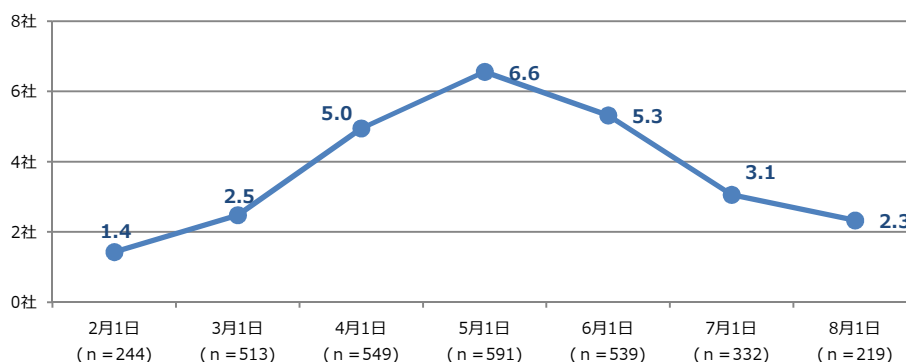
平均社数は、2.3社だった。属性別に見ると、男女別では男性が、企業規模に対する志向別では「企業の規模は全く意識していない」学生の方が、現在選考中の企業数が多くなっている（表9）。

平均社数の推移を見ると、6月1日調査（「2017年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2016年6月1日状況」）から引き続き減少している。就職活動を継続しているとは言え、リストアップしている企業数が少なくなってきたのか、就職活動の終了ムードが感じられる結果となった（図9）。

【表9】現在選考中の企業数：属性別

		0社	1社	2社	3 ~ 4社	5社 以上	平均
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(社)
全体 (n=219)		20.5	26.0	16.9	18.3	18.3	2.3
男女別	男性 (n=89)	18.0	28.1	11.2	20.2	22.5	2.6
	女性 (n=130)	22.3	24.6	20.8	16.9	15.4	2.1
文理別	文系 (n=176)	22.2	26.1	14.8	19.3	17.6	2.3
	理系 (n=43)	14.0	25.6	25.6	14.0	20.9	2.3
対する企業規模に志向別	大企業志向 (n=75)	18.7	30.7	14.7	21.3	14.7	2.3
	中小企業志向 (n=73)	20.5	26.0	17.8	21.9	13.7	2.2
	企業の規模は全く意識していない (n=71)	22.5	21.1	18.3	11.3	26.8	2.5
状況別	内定あり (n=104)	18.3	26.9	16.3	22.1	16.3	2.3
	内定なし (n=115)	22.6	25.2	17.4	14.8	20.0	2.4

【図9】現在選考中の企業数の推移／平均

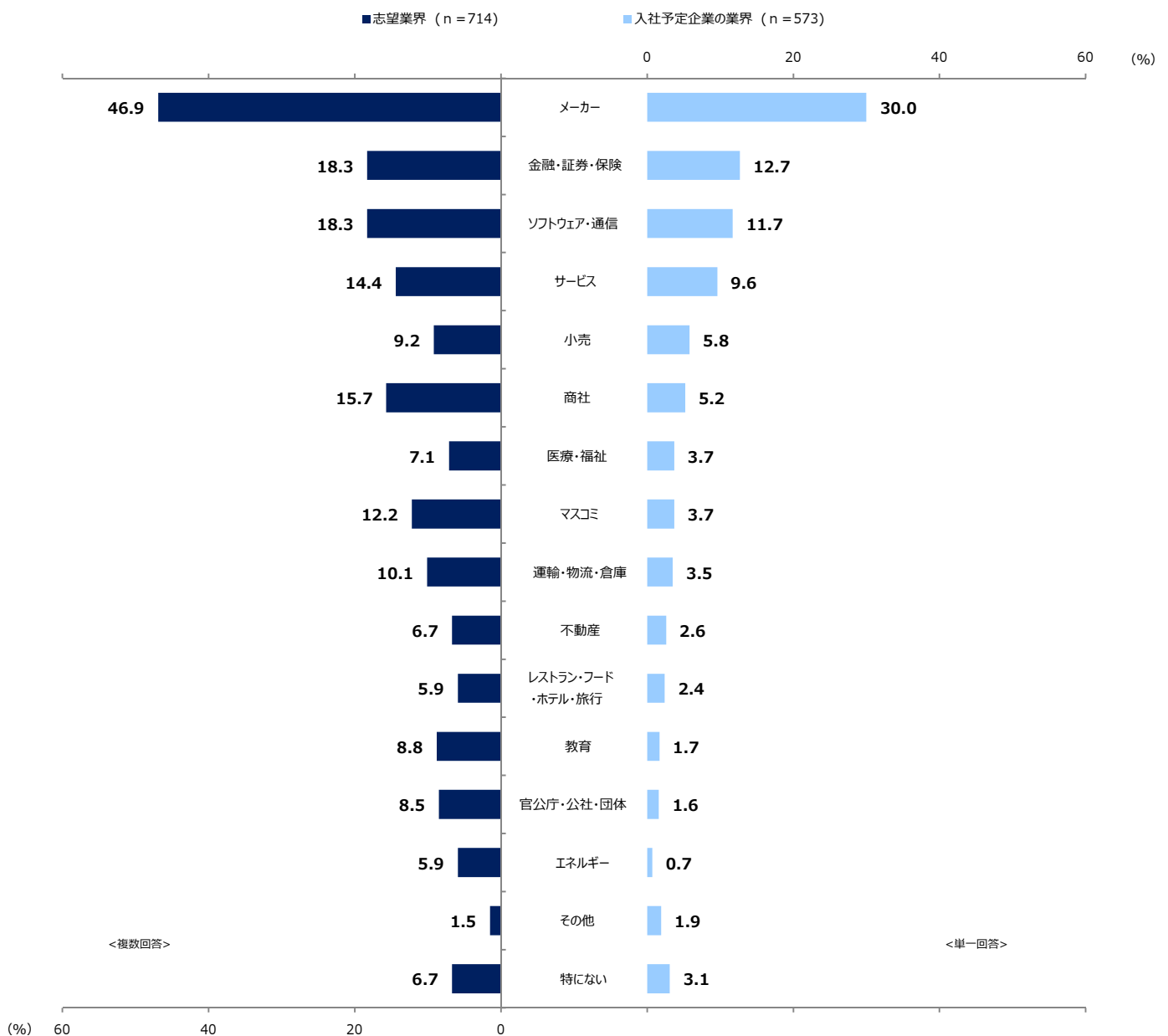


志望業界・ 入社予定企業の業界

学生に、8月1日時点の志望業界について聞くと、「メーカー」が突出して多く、46.9%となった。次いで、「金融・証券・保険」と「ソフトウェア・通信」が同率で18.3%、「商社」が15.7%となった。

また、「2 内定獲得状況」において、8月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業の業界を聞いた。結果は、「メーカー」30.0%、「金融・証券・保険」12.7%、「ソフトウェア・通信」11.7%の順となっている（図10）。

【図10】 志望している業界はどこか／入社予定企業の業界はどこか

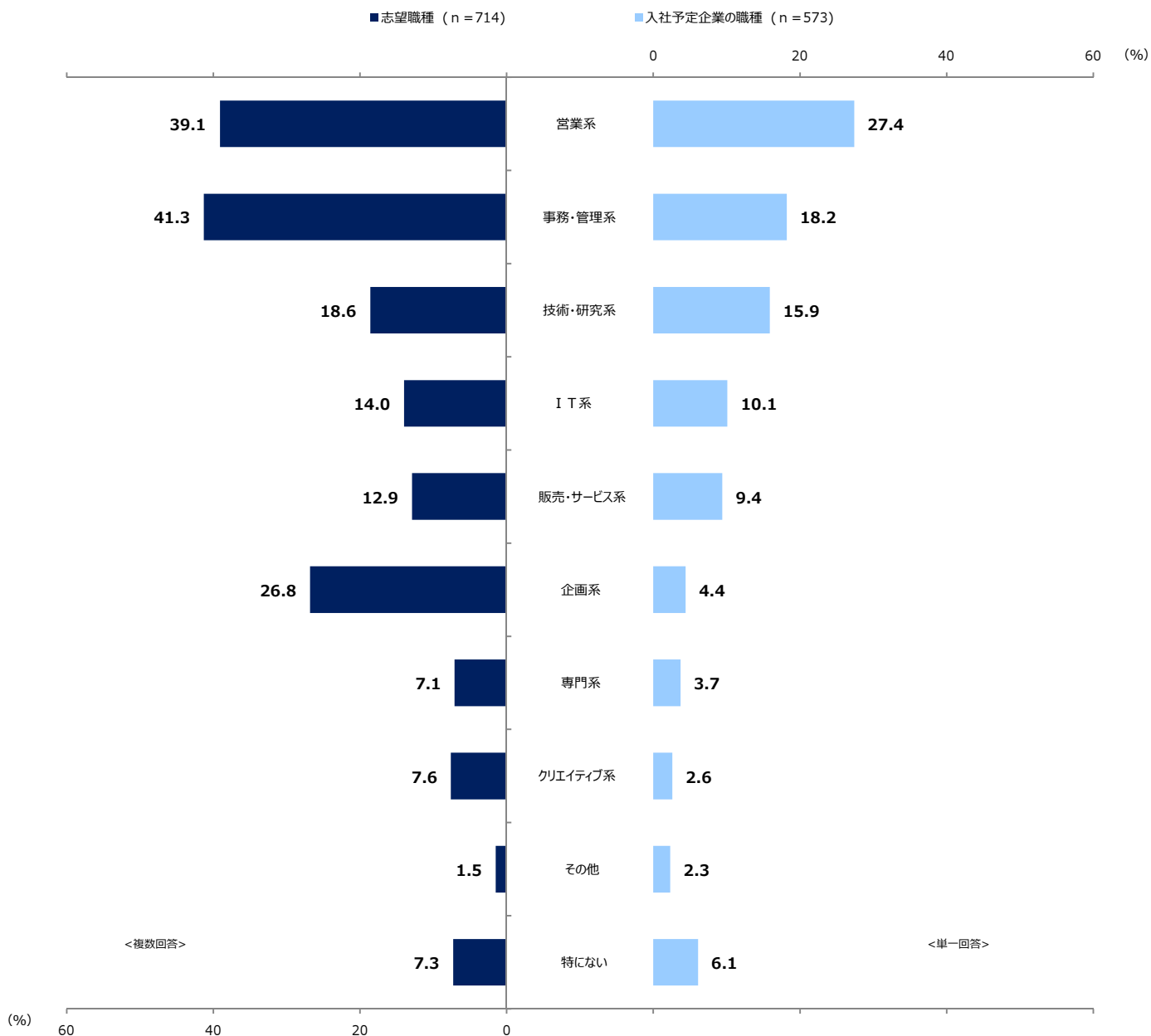


志望職種・ 入社予定企業の職種

学生に、8月1日時点の志望職種について聞くと、「事務・管理系」が41.3%と最も多く、続いて「営業系」39.1%、「企画系」26.8%、「技術・研究系」18.6%の順となった。

また、「2 内定獲得状況」において、8月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業で従事する職種を聞いた。結果は、「営業系」27.4%、「事務・管理系」18.2%、「技術・研究系」15.9%となっている（図11）。

【図11】 志望している職種は何か／入社予定企業で従事する職種は何か



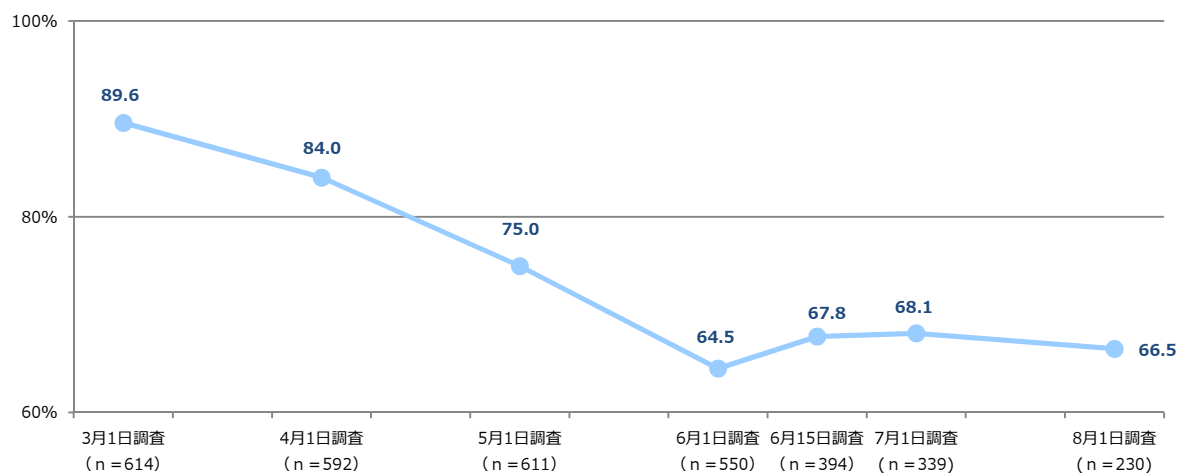
企業への新たな応募予定（8月）

「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活終了段階」「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、8月の就職活動において、新たに企業に応募する予定があるかを聞いた。「ある」と回答した学生の割合は、66.5%で、7月からほぼ横ばいとなった。内定を得られずに新たな応募先を開拓せざるを得ない学生や、満足のいく結果を求めて引き続き応募活動を続ける学生が一定数いることがうかがえる（図12.1）。

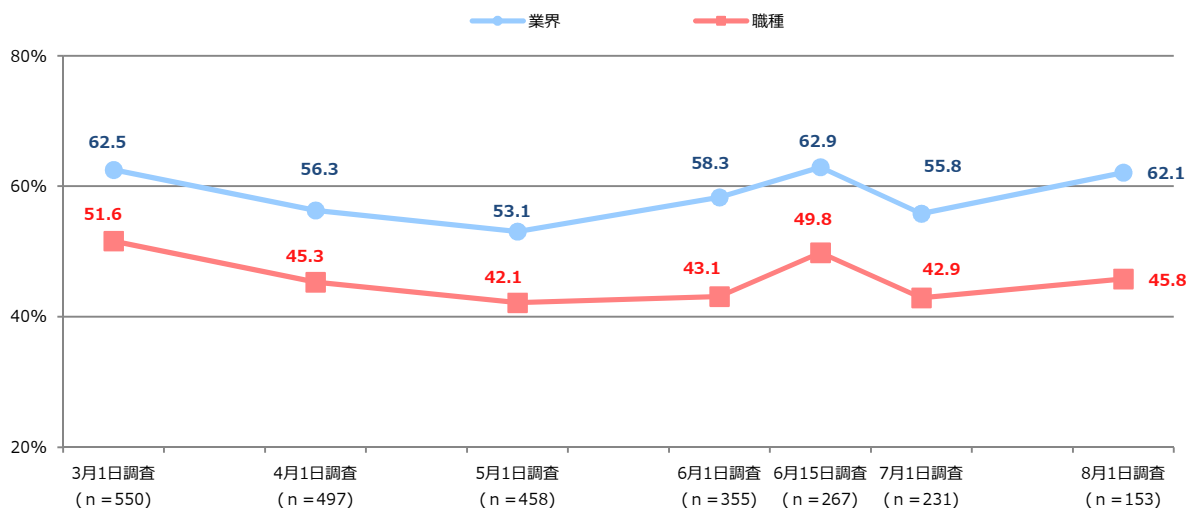
さらに、新たに応募する予定が「ある」と回答した学生に、今まで興味がなかった“業界”や、興味がなかった“職種”も応募しようと考えているかを聞いた。「（応募しよう）と考えている」と回答した学生の割合は、“業界”では62.1%、“職種”では45.8%となった。新たな企業に目を向ける際には、“職種”よりも、“業界”の視野を広げる学生の方が多い。

また、今までとは異なる“業界”や“職種”に応募する意向の学生は、7月に減少に転じたものの、再び増加傾向となっている（図12.2）。

【図12.1】 今月、新たに企業に応募する予定がある学生の割合：時系列



【図12.2】 今まで興味がなかった“業界”や“職種”も応募しようと考えている学生の割合：時系列



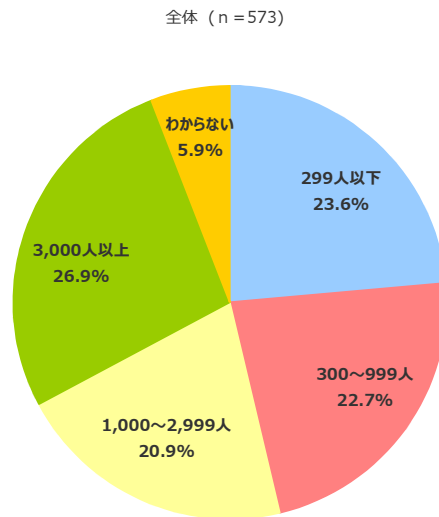
入社予定企業の従業員規模

「2 内定獲得状況」において、8月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業（複数内定獲得者は、現時点で最も入社志望度が高い企業）の従業員規模を聞いた。「3,000人以上」の企業に入社予定の学生が26.9%で最多となっている（図13.1）。

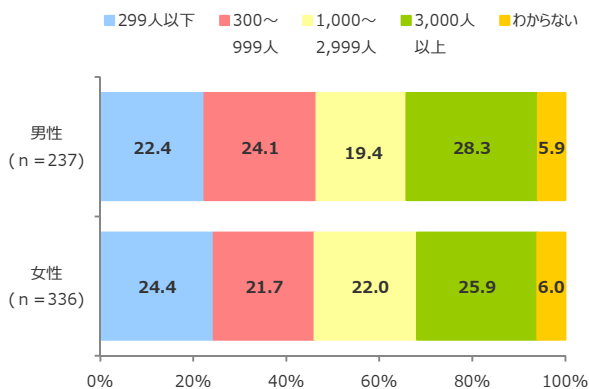
男女別に見ると、男女とも大きな傾向の差は見られなかった（図13.2）。

企業規模に対する志向別に見ると、「大企業志向」の学生の40.8%は「3,000人以上」の企業に入社予定である。反面、3割弱の学生は「299人以下」もしくは「300～999人」の企業に入社予定であり、自身の志向と入社予定企業の規模が合致していない。一方、中小企業志向の学生の8割は、「299人以下」もしくは「300～999人」の企業に入社予定である（図13.3）。

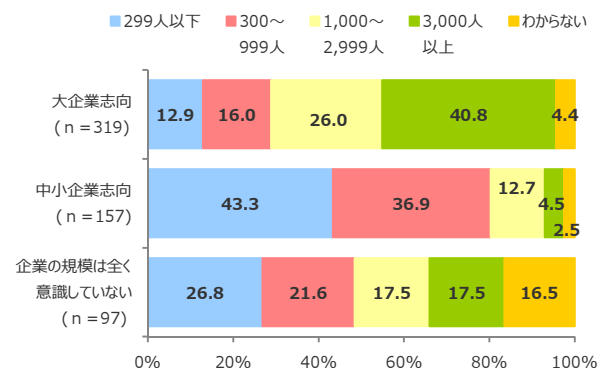
【図13.1】入社予定企業の従業員規模



【図13.2】入社予定企業の従業員規模：男女別



【図13.3】入社予定企業の従業員規模：企業規模に対する志向別

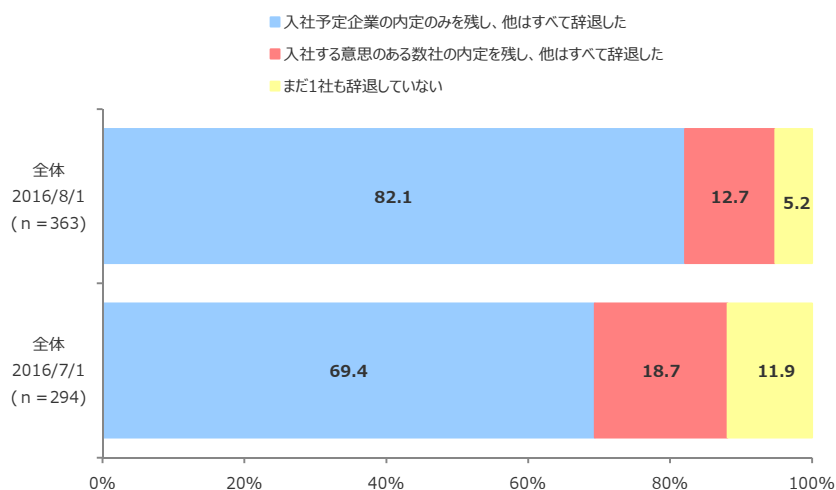


内定辞退の状況

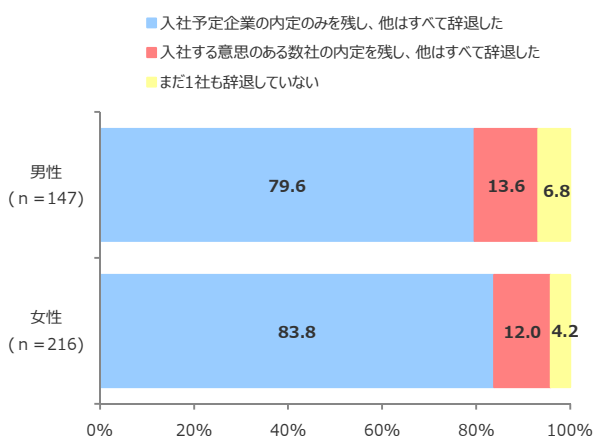
「2 内定獲得状況」において、8月1日時点で2社以上の内定を獲得している学生に対し、内定辞退の状況を聞くと、82.1%の学生が「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」と回答した。7月1日時点の69.4%から12.7ポイント増加しており、入社する“1社”を決めた学生が増えてきているようだ（図14.1）。

属性別で見ると、男女別では、男性よりも女性の方が「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」の割合が若干高い（図14.2）。文理別では、大きな差は見られなかった（図14.3）。

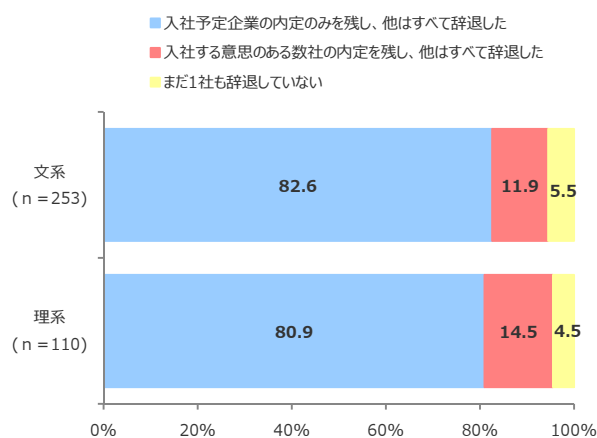
【図14.1】内定辞退の状況



【図14.2】内定辞退の状況：男女別



【図14.3】内定辞退の状況：文理別

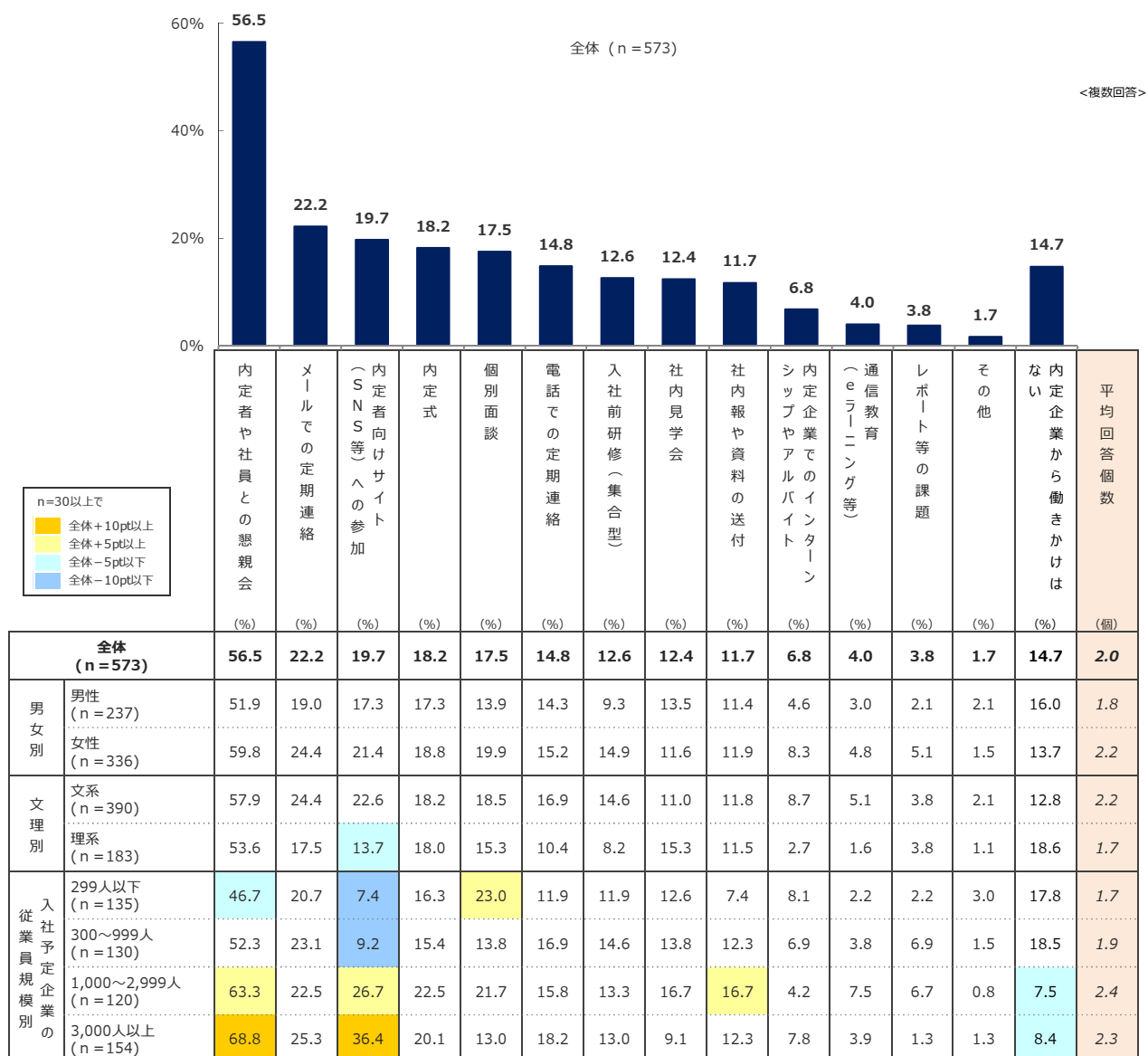


企業から受けた内定者フォロー

「2 内定獲得状況」において、8月1日時点で内定を獲得している学生に、内定獲得後に企業からどのような働きかけ（内定者フォロー）があったかを聞いた。最も多かったのは「内定者や社員との懇親会」で、56.5%と半数以上の学生が回答した。次いで、「メールでの定期連絡」が22.2%、「内定者向けサイト（SNS等）への参加」が19.7%となっている。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、従業員規模が大きい企業に入社予定の学生ほど、多くの内定者フォローを受けているようだ。特に、「内定者や社員との懇親会」や「内定者向けサイト（SNS等）への参加」でその傾向が強く出ている。半面、従業員規模が小さい企業に入社予定の学生は、規模の大きい企業に入社予定の学生よりも「個別面談」を挙げる傾向があった。内定者の多さや採用担当者の人員等、企業の規模によって内定者フォローの内容にも特色があるようだ（図15）。

【図15】内定獲得後に内定企業からどのような働きかけがあったか



内定者フォローの頻度

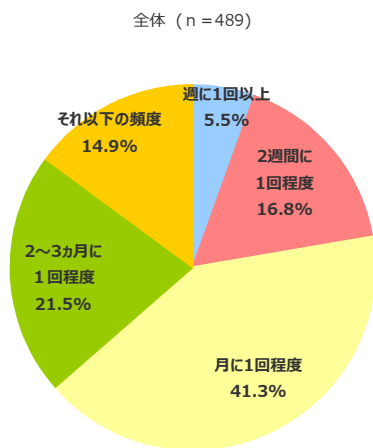
「15 企業から受けた内定者フォロー」において、「内定企業からの働きかけはない」以外の回答をした学生に、内定者フォローの頻度を聞いた。結果は、「月に1回程度」が最も多く41.3%、次いで「2～3か月に1回程度」21.5%、「2週間に1回程度」16.8%となっている（図16.1）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、従業員規模の大きい企業に入社予定の学生ほど、「2～3か月に1回程度」「それ以下の頻度」を合わせた回答割合が低くなる傾向があった（図16.2）。

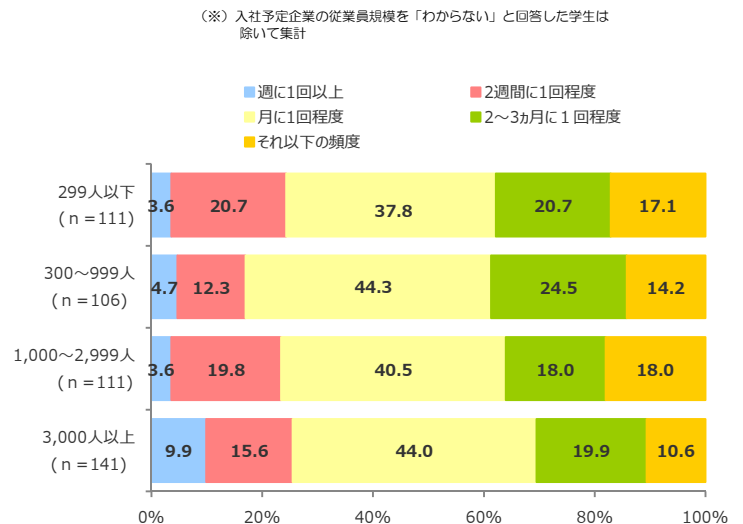
また、内定者フォローの頻度についてどのように感じているか聞くと、「ちょうどよい」と感じている学生が58.5%に上った（図16.3）。

これを、内定者フォローの頻度と合わせて見ると、「2週間に1回程度」「月に1回程度」を回答した学生は、その他の頻度を回答した学生よりも、回答した頻度に対して「ちょうどよい」と感じている割合が高く、それぞれ74.4%、69.3%となった。これよりも頻度が高い「週に1回以上」だと「多すぎる」「やや多い」と感じる学生の割合が増加し、頻度が低い「2～3か月に1回程度」「それ以下の頻度」になると、「やや少ない」「少なすぎる」または「特に何とも思わない」と感じる学生の割合が増えている（図16.4）。

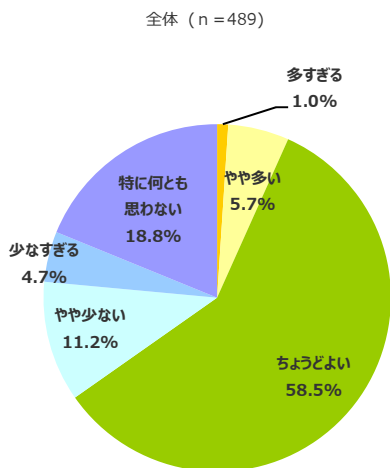
【図16.1】企業からの内定者フォローの頻度



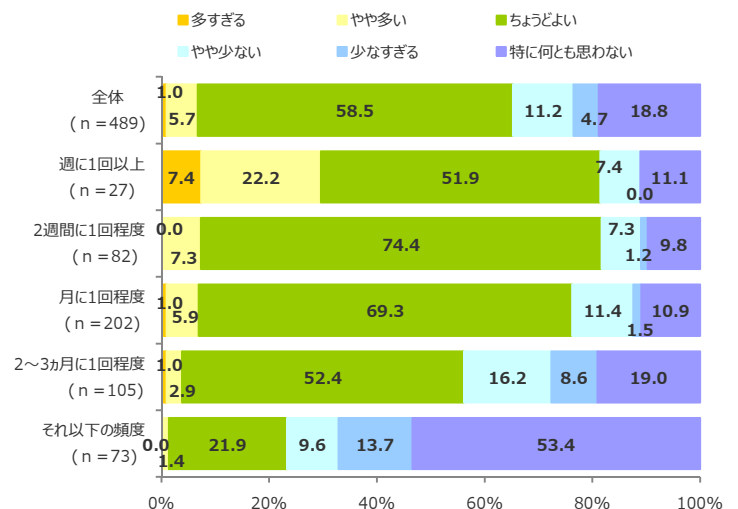
【図16.2】企業からの内定者フォローの頻度
：入社予定企業の従業員規模別（※）



【図16.3】企業からの内定者フォローの頻度について
どのように感じているか



【図16.4】企業からの内定者フォローの頻度について
どのように感じているか：内定者フォローの頻度別

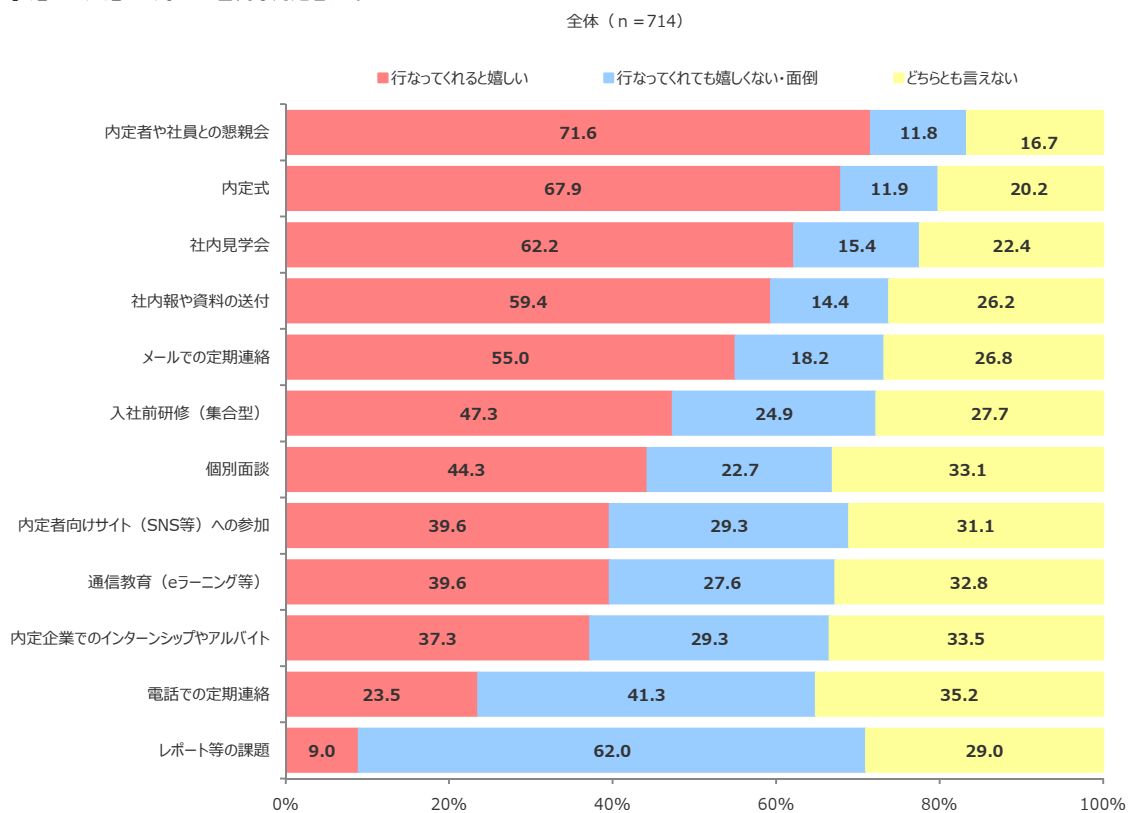


行なってくれると嬉しい内定者フォロー・面倒に感じる内定者フォロー

学生に、内定を獲得してから入社までの間に、内定企業がどのような内定者フォローを行なってくれると嬉しい、もしくは嬉しくない・面倒と感じるかを聞いた。「行なってくれると嬉しい」と感じる内定者フォローは、「内定者や社員との懇親会」71.6%、「内定式」67.9%、「社内見学会」62.2%、「社内報や資料の送付」59.4%の順となった。反対に、「行なってくれると嬉しい・面倒」と感じる内定者フォローのワースト1位は「レポート等の課題」で、62.0%と突出している。以降は「電話での定期連絡」41.3%、「内定企業でのインターンシップやアルバイト」と「内定者向けサイト（SNS等）への参加」が同率で29.3%と続いている（図17.1）。

「行なってくれると嬉しい」と感じる内定者フォローについて、男女別に傾向を見た。ほとんどの項目で、女性の方が回答割合が高く、企業が行なうさまざまな内定者フォローに対して好意的に捉えている傾向があった（表17）。

【図17.1】嬉しい／嬉しくない・面倒な内定者フォロー

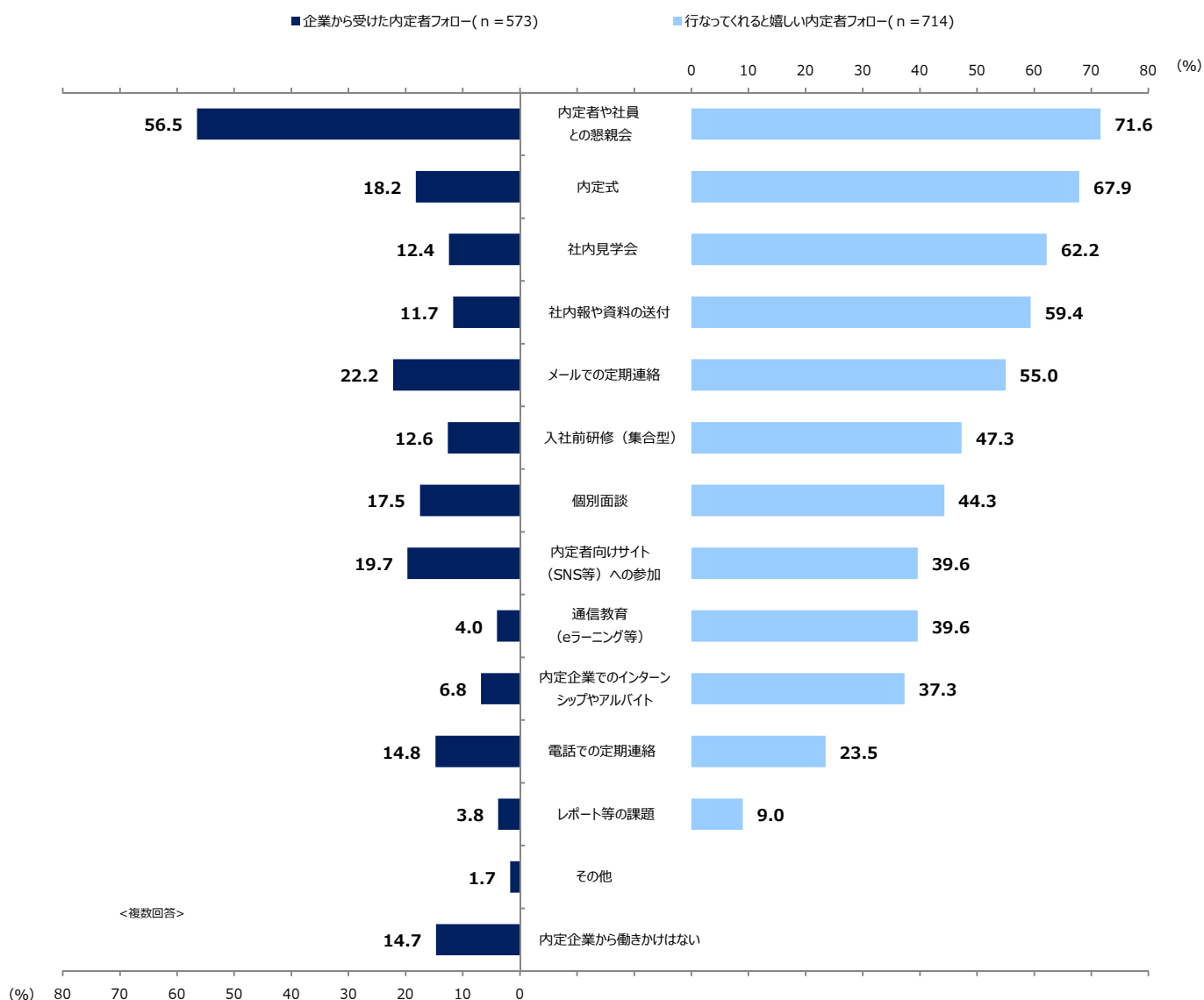


【表17】嬉しい内定者フォロー：男女別

		と内定者や社員との懇親会	内定式	社内見学会	社内報や資料の送付	メールでの定期連絡	入社前研修 (集合型)	個別面談	内定者向けサイト (SNS等) への参加	通信教育 (eラーニング等)	内定企業でのインターンシップやアルバイト	電話での定期連絡	レポート等の課題
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=714)		71.6	67.9	62.2	59.4	55.0	47.3	44.3	39.6	39.6	37.3	23.5	9.0
男女別	男性 (n=287)	64.8	64.1	57.8	53.0	46.7	44.3	39.0	36.6	37.3	34.8	26.5	10.1
	女性 (n=427)	76.1	70.5	65.1	63.7	60.7	49.4	47.8	41.7	41.2	38.9	21.5	8.2

さらに、「15 企業から受けた内定者フォロー」の結果と比較した。学生が実際に企業から受けた内定者フォローは、「内定者や社員との懇親会」のみが5割を超え突出して高く、他のフォローは2割程度もしくはそれ以下に留まっている。しかし、実際に行なわれていなくても学生が好意的に捉えている内定者フォローは多くあり、企業が多様な内定者フォローを行なうことで、学生の内定辞退の防止や入社意欲の向上などに効果がありそうだ（図17.2）。

【図17.2】行なってくれると嬉しい内定者フォロー：企業から受けた内定者フォローとの比較



入社前に受けた研修

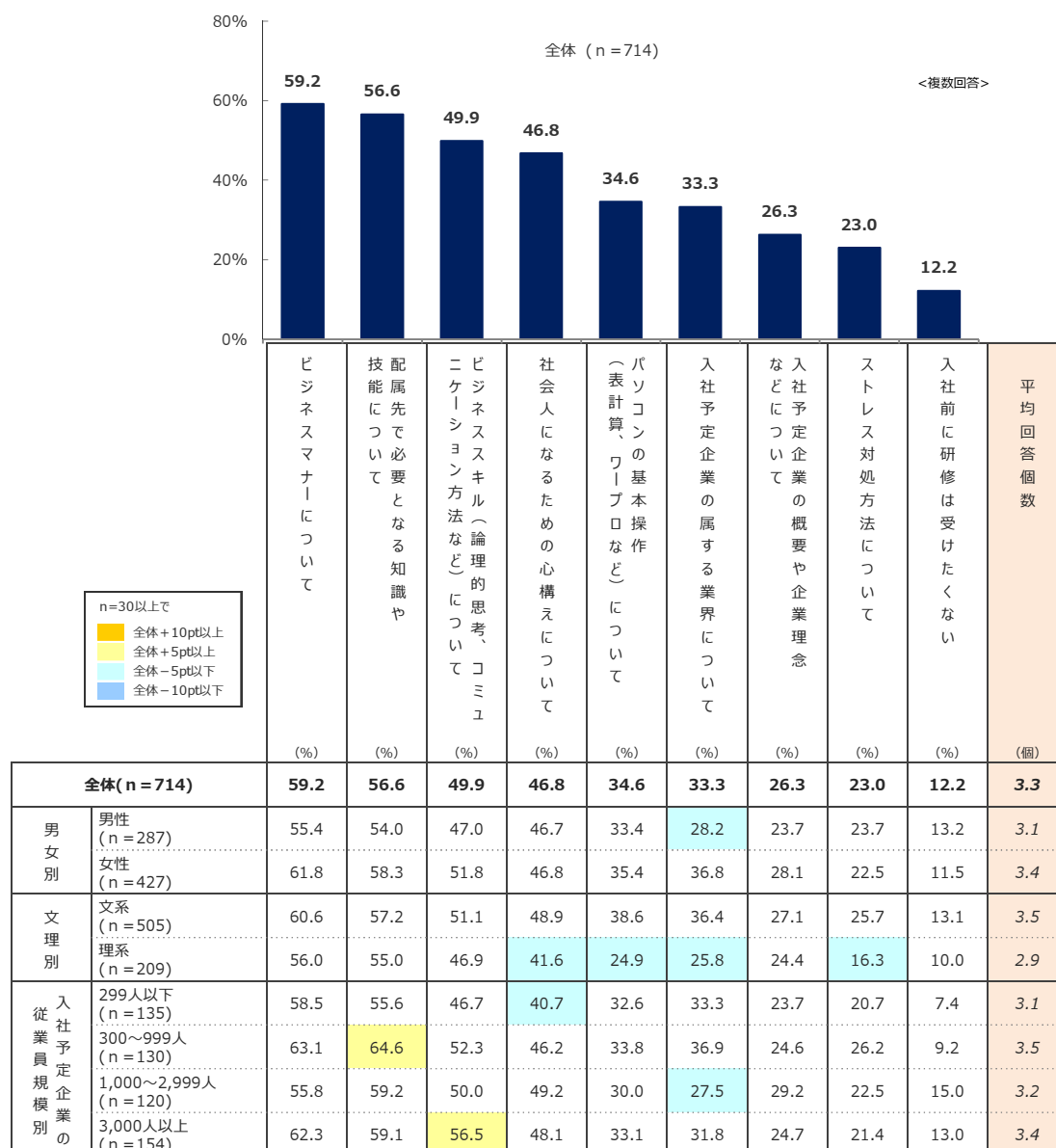
学生に、入社前に入社予定企業からどのような研修を受けたいか聞いた。最も多かったのは、「ビジネスマナーについて」で59.2%に上った。次いで「配属先で必要となる知識や技能について」56.6%、「ビジネススキル（論理的思考、コミュニケーション方法など）」について49.9%、「社会人になるための心構えについて」46.8%となっている。

男女別に見ると、女性は男性よりも平均回答個数が多く、多くの研修を受けたいと考えているようだ。特に、「入社予定企業の属する業界について」や「ビジネスマナーについて」で、男女の差が大きくなっている。

文理別に見ると、文系は理系よりも受けたい研修が多く挙がっており、平均回答個数も0.6個多い。また、理系は、学業や就職活動を通じて既に習得しているのか、「パソコンの基本操作（表計算、ワープロなど）」についてや「入社予定企業の属する業界について」において、文系よりも受講意欲が低い。

入社予定企業の従業員規模別で見ると、「ビジネススキル（論理的思考、コミュニケーション方法など）」についてに関しては、入社予定企業の従業員規模が大きい学生ほど、研修を受けたがっている意向がある。全体では「300～999人」の企業に入社予定の学生が、平均回答個数が3.5個と最も多く、受講意欲が高い（図18）。

【図18】入社前にどのような研修を受けたいか



就職活動“解禁日”の必要性

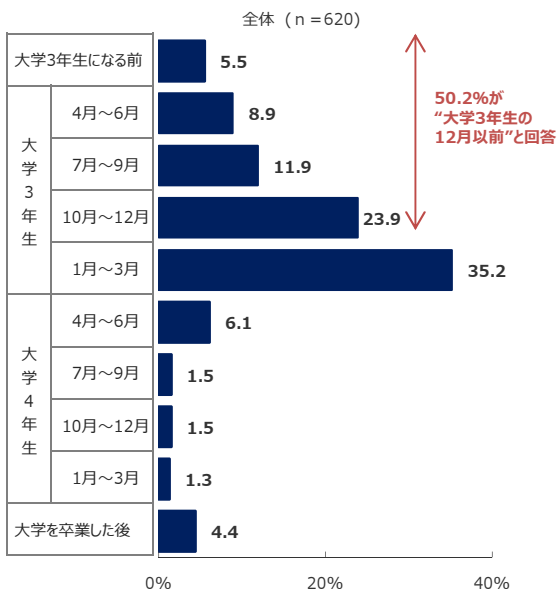
大学院生を除く学生（大学4年生）に、就職活動の開始時期（企業にエントリーをしたり、会社説明会に参加し始める時期）はいつ頃が適切だと思うか聞いた。最も回答を集めたのは、「大学3年生の1月～3月」で35.2%だった。次点には「大学3年生の10月～12月」が23.9%で挙がっており、50.2%の学生が、「大学3年生の12月以前」が適切だと考えているようだ（図19.1）。

内定獲得状況別に見ると、「内定あり（3社以上）」の学生は、「大学3年生の10月～12月」以前の時期を回答した割合が他の学生よりも高く、やや早めの開始時期を適切だと考えているようだ。一方、「内定なし」の学生では、「内定あり」学生よりも「大学4年生の4月以降」と回答した割合が高くなっていった（図19.2）。

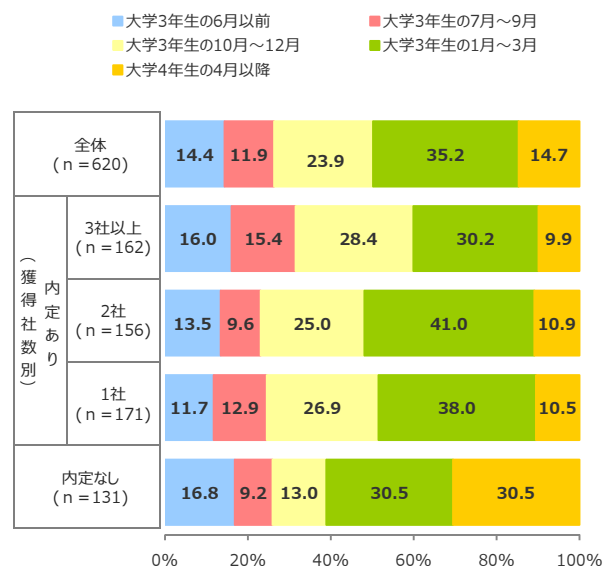
さらに、大学院生を含む回答者全員に、企業の新卒採用において広報活動や選考活動の解禁日は必要だと思うか聞いた。結果は、「必要だと思う」23.2%、「どちらかと言えば必要だと思う」30.3%、「どちらかと言えば必要だと思わない」20.4%、「必要だと思わない」23.9%となり、解禁日“必要派”（「必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」の計/以下同）の学生が53.5%と半数を超えた（図19.3）。

適切だと思う就職活動開始時期との関係を見ると、解禁日“必要派”の割合は、適切な就職活動開始時期を「大学3年生の1月～3月」と考えている学生で高くなっていった。一方、「大学4年生の4月以降」と考えている学生は、その他の学生と比べて、解禁日“必要派”の割合が低くなっていった（図19.4）。

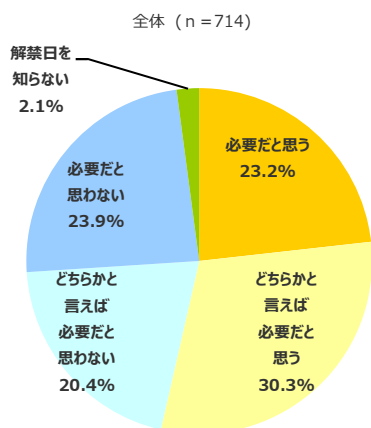
【図19.1】 適切だと思う就職活動開始時期



【図19.2】 適切だと思う就職活動開始時期：内定獲得状況別



【図19.3】 広報活動や選考活動の“解禁日”は必要だと思うか



【図19.4】 広報活動や選考活動の“解禁日”は必要だと思うか：適切だと思う就職活動開始時期別

